



## <今月のご案内>

ブナセンター講座

### ヒグマと生きる



2025年は全国でクマのニュースが相次ぎ、町内でも出没が多い1年でした。クマによる人身被害が出ることのないよう、専門家のお話を聞き、来シーズンに向けて正しい知識を身につけましょう。

【日 程】1月25日（日）13:00～14:40

【場 所】役場1階 防災コミュニティホール

【講 師】早稲田宏一氏

（NPOエンヴィジョン環境保全事務所）

【申込み】前日17:00までにブナセンターへ電話

【定 員】30名程度

【その他】講座後（15:00～15:30）にブナセンター周辺にて練習用クマスプレー噴射実演予定です。見学希望者は申込時にお知らせ下さい。（荒天時は中止）

## 2025年ブナの実調査の結果は…凶作！～ブナの結実を左右する“ある栄養分”とは？～

ブナセンターでは、歌才ブナ林の結実状況（豊作か不作か）を1994年から調査しています。2025年は、10か所の調査地点全てで実が確認できず、「凶作」という結果でした。2024年が「豊作」だったため、結実に使うある栄養分をブナが使い切ってしまい、2025年は結実しなかったと考えられます。



ブナの結実状況を左右するある栄養分とは何でしょうか？

植物は、光合成により炭水化物を自らつくり、成長や繁殖のために使ったり、貯蔵したりします<sup>1)</sup>。炭水化物以外にも、根から「窒素」などの無機物を吸収し、炭水化物を使って脂質やタンパク質などの物質をつくり、利用しています。特に実や花をつくるときには、葉をつくるときよりも多くの「窒素」が必要であるといわれ、これが植物の結実状況を左右しているのではないかと考えられています。豊作年には体内にある「窒素」を優先的に結実に使い、翌年には「窒素」が不足して花芽がつけられなくなるというわけです<sup>2)</sup>。

参考文献：

- 1)嶋田幸久・萱原正嗣(2019)「植物の体の中では何が起っているのか」ペレ出版 p.112-118
- 2)森林総合研究所(2015)研究成果選集「樹木の種子豊凶のカギは窒素」p.58-59



0個/m<sup>2</sup>

歌才ブナ林は2028年に天然記念物指定100周年を迎えます

FacebookのQRコードは  
こちら

発行所：黒松内町ブナセンター  
〒048-0101 北海道寿都郡黒松内町字黒松内512-1  
TEL 0136-72-4411 FAX 0136-72-4440  
MAIL bunacent@host.or.jp HP <https://bunacent.host.jp>  
FB <https://www.facebook.com/kuromatsunai.bunacent>

ブナセンター講座

# ヒグマと生きる

1月25日(日)13:00~14:40

黒松内町役場1階コミュニティ防災センター

昨年は、黒松内町でも例年よりヒグマ目撃情報が多く集まり、不安を感じた方も多いかったのではないかでしょうか。

ヒグマについて正しい知識や対処法を学び、ヒグマの被害を出さずに、共存していく方法を考えてみましょう。9月に開催した「ヒグマカフェ」で寄せられたヒグマへの疑問にも、講師の早稲田宏一さんからお答えいただきます。

講座の後、15時よりブナセンターにてクマスプレーの噴射実演を行います。見学をご希望の方は、お申込み時にお伝えください。（荒天時は中止）



【定員】30名程度

【対象】大人向け

（小学3年生以上は

保護者同伴で参加可）

【参加料】無料

【お申込み】前日17時までにブナ  
センターへお電話にて。

講師：早稲田宏一さん

特定非営利活動法人EnVision環境  
保全事務所研究員。学生時代にヒ  
グマの生態調査に関わる。以後ヒ  
グマ・エゾシカ等の調査研究や被  
害対策の業務に  
従事。狩猟者と  
しても活動し、  
野生動物の普及  
啓発活動に取り  
組んでいる。



-お問合せ・お申込み：黒松内町ブナセンター（0136-72-4411）-